



高原の風だより

2022（令和4）年2月 発行 <第22号>

～消防団の処遇改善目指す～

新年度から団員報酬を引き上げ



消防団の火災想定訓練（昨年）

改正された消防団員報酬（円）

出動手当もアップ ～4時間超は6千円に～

消防団は町民の安全・安心な暮らしを守るため、日々訓練を重ね大変に苦勞されている。そこで団員の報酬など処遇改善について、昨年の議会の一般質問でも取り上げ「郡下の平均を下回る階級（本部長以下）については、引き上げるべきではないか」と、強く町へ改善を要望した。

その結果、消防庁からの通知があったこともあり、さっそく消防委員会にその旨を諮問。同委員会からの答申を受け、議会12月定例会で右記の通り改正案が示され、全会一致で議決された。

また、階級については、現消防団体制に合わせて音楽隊長、女性隊長、音楽副隊長、女性副隊長を新たに加えるほか副班長をなくす。

なお、1回3千円と規定されていた出動手当についても、4時間を超える出動については6千円に引き上げられることになる。これらの施行期日は4月1日。

階級	現行	改正後
団長	170,000	170,000
副団長	151,000	151,000
本部長	84,000	100,000
分団長	57,000	65,000
ラッパ隊長	57,000	65,000
音楽隊長	—	65,000
女性隊長	—	65,000
副分団長	39,000	45,000
ラッパ副隊長	39,000	45,000
音楽副隊長	—	45,000
女性副隊長	—	45,000
部長	25,000	31,000
班長	19,000	25,000
副班長	13,000	—
団員	12,000	18,000

寒さも雪も貴重な地域資源

自然の厳しさと美しさ

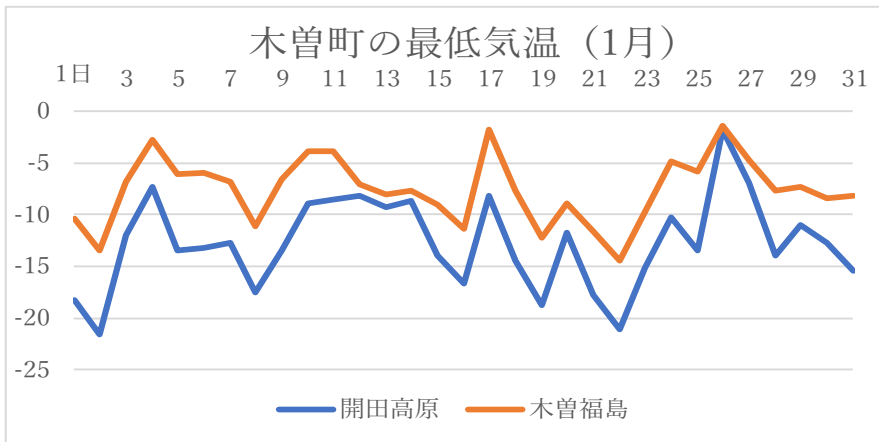
開田高原では氷点下 20 度

今年の冬は予報通り大雪で連日厳しい寒さが続いている。標高1100mの開田高原では1月2日と22日に最低気温が氷点下20℃を超えた。特に2日には21.6℃と、県内30観測地点で一番寒かった。しかも1月の観測史上最低を更新した。

この寒さや雪は生活するうえでは厄介者であるが、貴重な地域資源でもある。スキーやボードを楽しむだけでなく、雪や寒さによって自然が織りなす風景は、とても美しく幻想的で大きな観光資源だ。



氷点下の朝は放射冷却現象によって、ひときわ御嶽山が美しい



(資料：気象庁)



川面から蒸気霧が上がる

氷点下 20℃で景色が一変

～幻想的な霧氷や蒸気霧～



霧氷で木々が白く輝いていた

正月早々、1月2日の氷点下21.6℃には驚いた。朝起きると家の中もしんしんに冷え切っていて、ストーブをつけても部屋の中がすぐには温まらなかった。

食事前に車で出掛けると周囲の景色は一変。空気中の水分が木の枝に付着し凍結する霧氷が発生し、カラマツやシラカバは白く覆われ朝日を浴びてキラキラ輝いていた。また、開田小学校の近くを流れる末川では、暖かい水面上に冷たい空気が流れ込んで蒸気霧が発生。それはまるで温泉の湯気が立ち上っているような幻想的な光景だった。この厳寒の中、何人かのカメラマンがシャッターチャンスを狙っていた。

自然が織りなす壮大な光景

木曽の寒さが生んだ自然の造形美、氷の芸術といえば、やはり三岳の白川氷柱群がすぐに思い浮かぶ。幅が約250m、高さがおよそ50mにも及ぶといわれ、その規模も美しさも他の追随を許さない。

これは木曽川水系の西野川右岸の岩壁からしみ出た伏流水が連日の寒さで凍ってできたもの。その壮大なスケールは、「美しい氷のカーテン」とも形容される。

先月も週末には県内外から観光客や家族連れなどが大勢訪れて、盛んにスマホで自然が織りなす壮大な造形美を写真に収めていた。

～三岳の白川氷柱群～



その壮大さに圧倒される白川氷柱群



南宮神社にある旭の滝

旭の滝も“全面結氷” ～日義の南宮神社～

町内でも雪が少なく比較的暖かい日義でも、今冬は厳しい寒さが続き南宮神社の境内にある旭の滝が“全面結氷”し、素晴らしい景観を見せている。

旭の滝は、消失していた幻の滝を8年ほど前に南宮神社の氏子でつくる祭礼委員会によって復元したもので、農業用水から水を引いているという。滝の高さはおよそ20mあり、普段は岩肌を沿うように水が流れているが、年末からの冷え込みで氷の造形美が出来上がった。

夜はライトアップされ赤や青、緑などの光に照らされてより幻想的な光景を醸し出している。

この旭の滝がある南宮神社は、国道19号の巴淵交差点を300mほど福島方面に向かった国道沿いにある。

幻想的で温かな光が揺らめく

木曽町で冬の寒さや雪を生かしたイベントが福島の雪灯りの散歩路や開田高原のかまくらまつりだ。かまくらまつりは、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止になった。雪灯りの散歩路は会場を限定したり、飲食を取りやめたり、内容を大幅に縮小したりして予定通り2月4日（金）、5日（土）の夕方から夜にかけて行われた。

八沢や上の段の中山道沿いや河川敷には例年の半分余り、約2000個のアイスクャンドルが並び、訪れた観光客や家族連れらは温かな光が揺らめく幻想的な光景を楽しんだ。

今回、八沢会場には大相撲初場所で3度目の優勝を果たし、大関に昇進した御嶽海関の雪像も登場。迫力満点の出来栄えに、大勢の関心が集まっていた。

このイベントの素晴らしさは、何ととっても保育園児から小・中学生、高校生、林大生、そして一般町民など、多くの人たちが氷作りから積極的に関わっているという点だ。保育園児がモミジの葉っぱなど植物を閉じ込めたアイスプレートは、毎年とても好評だ。イベントというところから行政に頼りがちであるが、町民が自主的・主体的にみんなで行き、しかも実行委員をはじめ関わっている人たちが、それぞれ自ら楽しんで行っているという点においても、非常に先進的だと思っている。今年はコロナ禍でかなわなかったが、来年はもっと積極的に関わりを持ち少しでも協力できればと考えている。

～信州木曽ふくしま雪灯りの散歩路～



幻想的で温かな光が揺らめく八沢会場

はりきりご長寿列伝

はやし さだひこ
林 禎彦 さん (87歳・木曾町福島) ⑱

高齢にもかかわらず現役で仕事をしている人や自分の趣味を大いに楽しんでいる人など、元気あふれるお年寄りを紹介します。今回は木曾町福島の林禎彦さんです。なお、この様子は3月14日にNHKテレビのイブニング信州で放映される予定です。

(注) 事件や事故などでニュースが長引いた場合、放送が延期になることがあります。



こんな楽しいこと世の中にあるのか ～スキー場へ年60回～

豆腐を中心に米穀や燃料(白灯油など)を販売している(株)田中屋の会長・林禎彦 林 禎彦 さん(87歳)。今でも毎朝、5時から8時半頃まで仕事場に立ち豆腐のパック詰めなどの仕事を手伝っている。「原料の大豆にこだわり、天然の井戸水を使っているののでおいしい豆腐ができます」と話す。

そんな林さんの趣味は多彩だ。1番が釣り、次がスキー。3番目は歌だという。釣りは、湖でボートに乗ってルアーで釣るのが好きで、若い時に2級小型船舶の免許も取得した。サケを釣りにアラスカへ行ったことも何度かある。地元のダムでは45センチのヤマトイワナを釣り上げ、魚拓にしたことも。



スキーの指導をする林さん(右・1月31日)

スキーは始めてからもう75年になるというが、「天気の良い日に滑る爽快感は最高!」と声が弾む。若くして指導員資格も取得。8年ほど前には高齢者を中心としたスキーサークルを立ち上げ、ほぼ毎週スキー指導を行っている。「平均年齢は77歳ですが、みんな元気で楽しく滑っています」と笑う。黒いヘルメットにゴーグルをかけ、赤いスキーウェアに身を包みさっそうと滑る姿は、とても87歳とは思えない軽やかさだ。年に60回はスキー場へ通っているという林さん、「こんなに楽しいことが世の中にあるのかと思うほどです」とスキーの魅力を熱く語る。

3番目の歌については小さいころから大好き。オーディションを受けて松本市民オペラの公演にも2回出演した。今は月に一度安曇野まで通い声楽のレッスンをしている。2年ほど前にはプロのピアノ演奏で歌いCDも作った。「なんでも凝り性なんです」と笑う。

健康の秘訣は「ストレスをためないこと」。今後の抱負は「人の役に立つこと」ときっぱり。暖かくなったら買い物に不自由している近所のお年寄りの手助けをする予定だ。

健康の秘訣は「ストレスをためないこと」。今後の抱負は「人の役に立つこと」ときっぱり。暖かくなったら買い物に不自由している近所のお年寄りの手助けをする予定だ。

私の本棚

『涙の数だけ大きくなれる!』

(木下晴弘 著・青春文庫)



生きる力がわいてくる「自分へのメッセージ」と副題がつく本書は、名古屋市在住の作家・志賀内泰弘先生から送っていただきました。仕事がイヤになった、人間関係に悩んだとき・・・「心をゆさぶり、やる気に火をつける」と35万人が感動したストーリーとは。

「あるレジ打ちの女性」何をやっても続かない・・・そんな彼女に心の変化が起こる出来事が訪れる・・・。「肩書のない名刺」未経験の職種に40代で転職した男性。彼が実践した、見えないところで差がつく心の習慣とは。

編集後記

昨年11月14に行われた町議会議員選挙では、皆様から多くのご支援をいただき有り難うございました。4年間の経験を踏まえ得票に恥じることはないように、現場の声に耳を傾け精一杯議員としての職務を全うしようと考えています。町や議会をはじめ日々の暮らしについて皆様のご意見をお寄せください。



編集・発行者： 大目 富美雄 (おおめ ふみお)

〒397-0301 長野県木曾郡木曾町開田高原末川 5190 番地

電話& FAX 0264-42-3661

携帯 090-2526-7156

E-mail info@ome-fumio.com